

伊興エリアの
町会・自治会は
魅力いっぱい！



伊興地区町会自治会連合会 45 周年記念

IIRKOOHUA

BOOK

イロハのいこう

伊興町自治会

伊興北根町会

都市再生機構 西新井第三団地自治会

伊興西町会

伊興中央町会

伊興北町会

伊興東町会

伊興町アパート自治会

伊興仲町会

西新井四丁目諏訪木町会

西新井四丁目自治会

東伊興町会

狭間町会

伊興南町会

伊興五丁目アパート自治会

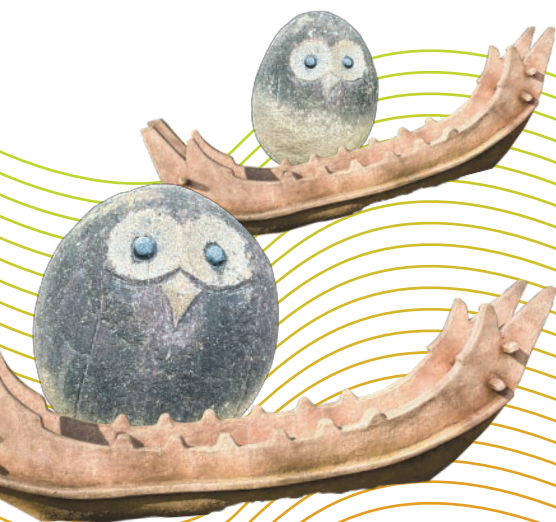
伊興四丁目住宅自治会

伊興三丁目アパート自治会

伊興町第2アパート自治会

伊興町前沼アパート自治会

伊興二丁目自治会



IIRKOHUA

イロハのいこう

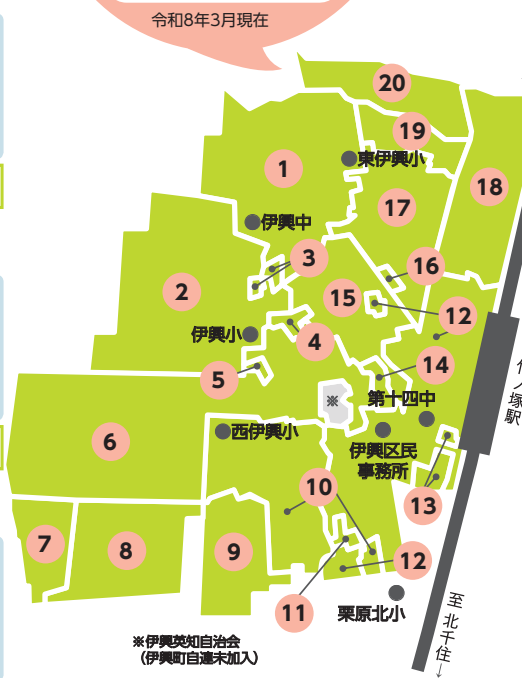
MOKUJI

保存版



いこう 町会・自治会 マップ

足立区伊興区民事務所管内
令和8年3月現在



原 富雄
幅広い年代の皆さんが元気いっぱい。ゴミゼロを目指し、清掃に力を入れています。

1 伊興北町会 本誌掲載 P.14
西伊興4丁目、東伊興1丁目、伊興5丁目

永田 正三
あいさつの声が聞こえる町。子どもからご年配の皆さんまで楽しい全世代町会！

2 伊興西町会 本誌掲載 P.13
西伊興2～3丁目、伊興2丁目、伊興4～5丁目

市橋 美夫
明日に向かい、つながっていこう。GO！入居者同士、力を合わせて励んでいます。

3 伊興五丁目アパート自治会 本誌掲載 P.19
区宮伊興五丁目アパート

渡部 美智子
入居者同士の顔が分かる関係で、明るいアパートです。自治会活動はみんなでアイデアを出し合いながら分担しています！

4 伊興四丁目住宅自治会 本誌掲載 P.19
区宮伊興町本町第2アパート

ファミリー層も増えてきました。入居者の自治会加入率100%なので、いざという時に頼れる安心感がありますよー

赤松 眞智子
5 伊興二丁目自治会 本誌掲載 P.21
都宮伊興二丁目アパート

永遠に進歩と親睦を！ゆりかごからエンディングまで、手厚いサポートが自慢です。

昼間 雅樹
6 伊興中央町会 本誌掲載 P.14
西伊興1～2丁目、伊興2～4丁目

防犯カメラの設置など安全安心なまちづくりを進めています。

樋田 憲次
7 西新井四丁目自治会 本誌掲載 P.17
西新井4丁目

いざという時の力になるように、会員同士の交流を大切にしています。毎年恒例なのは、諏訪木第二公園でのお花見。大いに盛り上がりです。

齊藤 行弘
8 西新井四丁目諏訪木町会 本誌掲載 P.16
西新井4丁目

平井 利治
西新井中央公園の花壇づくりに力を入れています。3000球のチューリップをはじめ、四季折々の草花で彩る花壇は近隣の皆さんからも大好評です！

9 都市再生機構 西新井第三団地自治会 本誌掲載 P.13
都市再生機構 西新井第三団地

多彩なイベントを企画・運営し、会員の交流を積極的に図っています。

堀之内 晴信
10 伊興南町会 本誌掲載 P.18
伊興1～3丁目、西新井3丁目

一緒に歳を重ね、年齢が上がってきましたが、皆さん健康に気をつけ頑張っています。

金子 貴
11 伊興町アパート自治会 本誌掲載 P.15
都宮伊興町アパート

新たに子ども会を発足し、希望でいっぱい自治会です。

大島 啓
12 伊興町自治会 本誌掲載 P.12
西竹の塚1～2丁目、伊興1丁目、伊興3丁目

全入居者が自治会加入という信頼関係があります。恒例行事は夏の納涼会。アウトホームな雰囲気です！

堤 恵子
13 伊興町第2アパート自治会 本誌掲載 P.20
都宮伊興町第2アパート

自治会の活動やイベントを通じて地域の"共助の絆"を育みます。

伊藤 勝広
14 伊興三丁目アパート自治会 本誌掲載 P.20
都宮伊興三丁目アパート

防犯、防火、そして防災に力を注ぎ、老いも若きも安心して、楽しく住める町。

照井 辰美
15 伊興仲町会 本誌掲載 P.16
伊興3～5丁目

住めば都で、つながり深く。

菊地 秀夫
16 伊興町前沼アパート自治会 本誌掲載 P.21
区宮伊興町前沼アパート

3箇所の公園を定期的に10分清掃しています。一緒に公園をきれいにしよう！ジュースとお菓子がもらえるよ！

河内 勝利
17 伊興北根町会 本誌掲載 P.12
東伊興1丁目、伊興5丁目、伊興本町1～2丁目

太鼓の演奏をはじめ、子ども向けの取り組みやイベントも充実！ファミリーみんなで楽しく面白く過ごせますよ。

吉川 輝雄
18 伊興東町会 本誌掲載 P.15
西竹の塚2丁目、東伊興3丁目

狭間は遺跡の上に住んでいます！足立の鎌倉とも言われ歴史に守られたとても住みやすい町会です。

元井 一壽
19 狭間町会 本誌掲載 P.18
東伊興4丁目、伊興本町2丁目

国道4号線の西側で初の防犯まちづくり推進地区に認定されました。安心して子育てできるエリアですよー

海老沼 新雄
20 東伊興町会 本誌掲載 P.17
東伊興2丁目

表紙裏 いこう町会・自治会マップ

02 本誌に寄せて
足立区長 近藤 やよい、伊興地区町会自治会連合会 会長 樋田 憲次

03-05 伊興ヒストリー
03 伊興地域とは、歴史の宝庫！
04 縄文時代～戦国時代
05 江戸時代～近代、寺町の誕生

06 伊興寺町の魅力
法受寺 難波住職と狭間町会 元井会長が語る！ 地域にお返しすべく語り継ぎたい記憶

07 伊興の町会・自治会のはじまり
伊興町自連 山崎相談役が語る！ 伊興の町会・自治会

08-09 伊興町自連ヒストリー
令和2～6年度/令和7年度 特設窓口「会長に訊け」開設、走れ！防災、イロハのいこうフェス開催

10-11 伊興町自連NEWS『イロハのいこう』創刊号から最終号紹介
“イロハのいこう”とは？

12-21 町会・自治会紹介
012 伊興町自治会、伊興北根町会
013 都市再生機構 西新井第三団地自治会、伊興西町会
014 伊興中央町会、伊興北町会
015 伊興東町会、伊興町アパート自治会
016 伊興仲町会、西新井四丁目諏訪木町会
017 西新井四丁目自治会、東伊興町会
018 狭間町会、伊興南町会
019 伊興五丁目アパート自治会、伊興四丁目住宅自治会
020 伊興三丁目アパート自治会、伊興町第2アパート自治会
021 伊興町前沼アパート自治会、伊興二丁目自治会
021 法受寺 伊興寺町寄席 正安寺 奉納落語会

22-23 伊興町自連役員 町会・自治会員の話を訊く！
ライアンバーガーさん（伊興北根町会）
杉下さん（西新井四丁目自治会）
久保田さん（伊興三丁目アパート自治会）

24 編集後記

25 奥付
※ 伊興町自連は伊興地区町会自治会連合会の略称



本誌に寄せて

KONDO YAYOI

足立区長 近藤 やよい



区のパートナーとして さらなるご発展を

伊興地区町会自治会連合会が結成45年をお迎えになりましたことを、心からお慶び申し上げます。これまで運営に携わってこられた歴代の連合会長や役員の方々をはじめ、各町会・自治会長の皆様、町会・自治会の活動に参加された方々など、多くの皆様のご尽力とご協力で改めて感謝と敬意を表します。

近年、町会・自治会の加入率は低下傾向にあります。貴会におかれましては、この状況を変えていきたいとの強い思いから、地域新聞の発行をはじめ、町会・自治会長が直接住民の声を聴く特設窓口の開設、地域の力を結集したカルチャーフェスの開催など、積極的に取り組んでこられました。さらに、地域の歴史ある運動会に地域防災力の向上を目指した競技の新設、貴会オリジナルの防犯チラシの作成・掲示と、地域への熱い思いにあふれた取り組みの数々には感服するばかりです。

今後も区のパートナーとして共に歩んでいただきたく、私どもも町会・自治会の皆様への支援をさらに強化してまいります。

結びに、皆様の更なる発展とご健勝を心からご祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

TOIDA KENJI

伊興地区町会自治会連合会 会長 樋田 憲次



「チーム伊興」の力を結集して

伊興地区町会自治会連合会は、昭和54年4月、「伊興区民事務所管内町会・自治会連絡協議会」としてスタートいたしました。令和5年5月、会の名称を「伊興地区町会自治会連合会」に変更いたしました。伊興地域の伝統である、「連帯感のある、愛着心が持てる地域を維持し、発展させていこう」という精神のもと、20の町会・自治会で活動を行っております。

この間、これまでに経験のない「新型コロナウイルス感染症」によって、地域活動の制限、人と人とのつながりさえ難しい時期もありました。そうした時期を乗り越え、連合会オリジナルの「防犯対策チラシ」を作成・掲示、伊興町自連ニュースの発行、「会長に訊け!」の特設窓口の開設、今年1月31日、2月1日の2日間にわたり開催した「イロハのいこうフェス」など、ご好評をいただきました。地域の皆様のご協力に感謝申し上げます。

本誌の発刊にあたりまして、編集委員会及び町会・自治会長の皆様、取材や資料のご提供にご協力いただいた皆様方のお力添えに御礼申し上げます。これぞ「チーム伊興」の力の結集です。

結びに、さらなる連帯感と愛着心が持てる伊興地域に向け、今後も取り組んでまいりたいと思います。末永いご支援、ご協力をお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

IROHA 伊興 ヒストリー



伊興地域とは

足立区の多くの地域が中世以前の歴史まで遡ることができないのに対し、伊興は遺跡が発掘されたように、古代から暮らしていた人々によって開発が進められた地域で、区内では最も古い由緒を持つ。古代から現代まで各時代の地域の姿を物語る歴史資料や史跡が存在し、一貫して地域の歴史を把握することができるのも特徴。明治時代町村制下でも江戸時代の村が引き継がれ「伊興村」というひとつの村として構成されたため、古くから地域のまとまりがあると言われてきた。現在の伊興町自連のスピリッツにつながる伝統である。

歴史の宝庫!

伊興は歴史の宝庫である。その理由は大きく分けて3点ある。

- 1 ……伊興遺跡、白旗塚古墳群、若宮八幡神社遺跡など古代から中世の伊興の状況を物語る遺跡がある。
- 2 ……古くに創立された寺院や神社がある一方、震災後に浅草などの罹災寺院と共に移転してきた史跡や文化財が残る。
- 3 ……江戸時代に公的な街道に準じるとされた赤山道や見沼代用水と5堀[※]があることにより人々の往来が増え文化が発展した。

次ページから、その歴史を振り返っていく。



昭和48年伊興遺跡発掘の鉄入れ式。長年、伊興地域の人々により考古資料が採集されてきたことが本格的な発掘調査につながった



伊興遺跡公園（東伊興4-9-1）展示館では古墳時代の生活や祭祀など当時の状況を伝える土器や勾玉などを多数展示。復元された竪穴住居で当時の生活の様子を見ることが出来る



白旗塚史跡公園（東伊興3-10-14）伊興一帯には多くの古墳があったが地域開発のために取り壊され、唯一残っているのが白旗塚。5～6世紀頃に築造されたと推定される直径12mの古墳は東京都の指定文化財。園内には埴輪のオブジェもある



伊興付近の田んぼで手ぬぐいを被り作業中（昭和29年）。明治5年（1872年）の東京府におけるお米の生産額の第1位は伊興村。随一の米どころだった



昭和35年頃、伊興付近の畑。手前ではサツマイモのツルを切っている様子



昭和26年当時の竹ノ塚駅駅舎。ホームは待合室以外には屋根が無い簡素な造りだった

※見沼代用水と5堀：伊興のはんの木橋付近で保木間堀、竹塚堀、千住堀、西新井堀、本木堀の5堀に分派していた。水の分配を担当で管理するため区内各所から多くの人々が訪れた

縄文時代～弥生時代

縄文時代早期(9000年前)には世界的な気候温暖化によって大陸氷河が溶け海岸線が陸地に前進する「海進現象」、縄文時代後期(4000年前)になると気候冷涼化により「海退現象」が始まった。このため東京湾は徐々に後退し、関東平野の陸地化が進み、中川・荒川低地の形成が始まり、海岸線は毛長川付近まで後退したと考えられている。その頃、足立区内では毛長川流域周辺のみが水面から地上に姿を現した。伊興遺跡やその付近からは縄文後期土器等が少量出土しており、漁労活動のために近隣の丘陵地に住む縄文人が携行してきたものと考えられている。この頃伊興周辺は自然堤防が発達しておらず洪水の危険が絶えずあったため、長く暮らすことが難しかったことが推察される。なお、弥生時代は寒冷化の影響で足立区は無人口化していたようだ。

古墳時代

古墳時代の初期、毛長川流域の微高地に、足立区では舎人遺跡、伊興遺跡、花畑遺跡などがそれぞれ形成される。これら区内北部の遺跡群は古墳時代の「祭祀遺跡」とされている。特に伊興遺跡では、西国や朝鮮半島で生産された土器等、他地域産の物が多く発見されており、東京湾と毛長川を利用した物流の要衝であったと考えられている。伊興遺跡内では、実際に井戸枠として転用された舟材が発見されており、舟運に供された可能性もある。



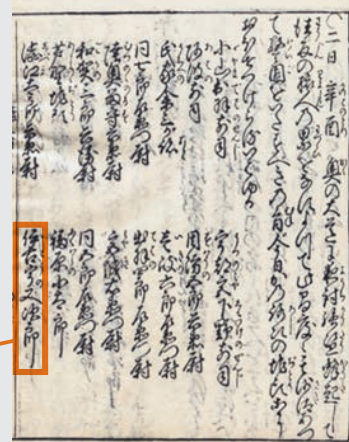
伊興遺跡公園 (P3) 竪穴住居

奈良・平安時代

伊興遺跡から出土した遺物によると、平安時代になっても「祭祀場」として機能していたようだが、平安時代前半にはその機能を失ったようだ。毛長川の細流化により伊興遺跡の重心はより南方に移行していく。地域の鎮守とされる伊興氷川神社(東伊興2-12-4)も、この時代から人々とのつながりが深かった。

鎌倉時代

文献史料に伊興が初めて登場したのは「吾妻鏡(建長8年(1256年))」である。鎌倉時代の東北地方への幹線道路である奥大道の警備を「伊古宇又次郎」等に命じた記述がある。又次(二)郎は伊興を本拠地とする一族の武士と考えられている。また、史料「市場之祭文写(いちばのさいもんうつし)」には祝詞の末尾に33の市名が列記されており、その中に「武州伊久宇市」の名がある。「伊久宇」は「伊古宇」にあたと推定されている。この時代において流通路の定点の一つだったことが分かる。

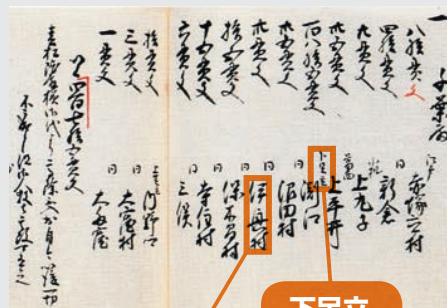


『新刊吾妻鑑』(国立国会図書館所蔵)

伊古宇又次郎

戦国時代

永禄2年(1559年)に小田原の戦国大名である北条氏が作成した家臣・国衆の所領台帳「小田原衆所領役帳(写真左、国立公文書館所蔵)」には「伊興村」が千葉氏の所領である旨の記載がある。千葉氏の所領は、生活基盤になる土地である上、道路や河川交通の重要地点に位置しているのが特徴。当時の伊興も南関東の流通経済の拠点として千葉氏に掌握されていたようだ。小田原北条氏の滅亡と徳川家康の江戸入府(1590年)と同時に、足立郡域での千葉氏の所領支配も終わった。千葉氏に関連する史跡は、現在でも長勝寺(伊興3-11-19)境内に千葉勝胤氏の墓(写真右)が残る。



伊興村

下足立



江戸時代

天和元年(1681年)、伊興村の一部は幕府から寛永寺(台東区)に寄進された。その支配は幕末まで続いた。幕府の領地の年貢は一旦郷蔵(村の年貢米を一時保管したり、災害時用の備蓄米を保管)に納められてから、谷下(やじった。現在の清掃工場あたり)耕地から船で毛長川、綾瀬川を経由し、蔵前にある幕府の浅草御蔵に上納していた。一方、寛永寺領地の年貢は直接寛永寺に上納していた。神事や仏事に供される米だったため、良質さを求められていたという。それぞれの領地は伊興村内で地域はまとまっておらず、村内に点在していた。



伊興氷川神社境内

明治時代

明治22年(1889年)、伊興村・保木間村・竹塚村・六月村が合併し「淵江村」になったが、様々な面において他地域との折り合いがつかず、明治24年(1891年)には独立し、再び「伊興村」になった。現在も伊興小学校敷地内には「伊興村役場跡」の石碑が残っている(写真)。また、明治時代の伊興が都内で随一の米どころだったのはP3で紹介した通りだが、一方で製紙業も盛んだった。大正10年(1921年)頃まで伊興の各地では紙漉きが行われていた。原料は古紙。再生された古紙はちり紙や本の表紙、襖紙、包み紙になった。その後、明治33年(1900年)に東武鉄道竹ノ塚駅が完成。以降、駅周辺の住宅地が拡大していく。



近代

伊興村に古くから残る寺院

右図の通り、伊興にある寺院のうち、7箇寺と1庵は古くから建立されていた。そのうち6箇寺と1庵は「新編武蔵風土記(江戸時代に編まれた武蔵国の地誌)」にも掲載され、地域の歴史や当時の住民の生活を知ることができている。

寺町の誕生

狭間道(東伊興4-2-3付近)や周辺に寺院が密集しているのは伊興の特徴のひとつである。この地域は、通称「寺町」と呼ばれ皆に親しまれてきた。もともと多くの寺院は浅草にあったが、関東大震災後、東京市が郊外に移転するよう促したことを受け、現在の地に移転。浅草が低地そして湿地であったことに対して、現在の寺町あたりは高台として乾燥地であったことが大きな要因になった。また、当時の伊興は農村だったため土地の多くが水田であり、新しく寺を建設しやすい環境でもあった。



● 古くから伊興にある寺
▲ 新しく移転してきた寺



伊興寺田町の魅力

※寺院を訪問する際にはマナーを守り、静かに参拝しましょう。

雪の日に元井会長が撮影した本行寺（東伊興4-6-10）。天正8年（1580年）越前で開山。大正9年に上京し、昭和6年から現在の地に



法受寺 Houjuji

DATA 浄土宗 東伊興4-14-8
怪談「牡丹灯籠」の寺で有名。正暦3年（992年）現在の荒川区で開創し、宝暦3年（1753年）谷中に移転。昭和10年、谷中の法受寺と浅草の照光山安養寺が合併し現在地に。後深草法皇の木像、区文化財の徳川綱吉公の生母桂昌院のお墓もある。



正安寺 Shoanji

DATA 浄土宗 東伊興4-3-3
元和2年（1616年）、浅草に草創。徳川綱吉公の母堂が釈迦涅槃像を寄進し、以後、「ねはんさま」と親しまれる。昭和6年、現在地に。平成に入り、地域の町おこしに「おきあがり観音」等を安置。地域を思う姿勢は現在の落語会（P21）にもつながっている。



東陽寺 Toyouji

DATA 曹洞宗 東伊興4-4-1
慶長16年（1611年）、京橋で創建。浅草に移転後、昭和3年、現在地に。初代三遊亭圓朝師匠が創作した「塩原太助一代記」のモデルになった大商人、塩原太助のお墓や江戸時代の歌人で国文学者の戸田茂睡の歌碑、阿弥陀三尊来迎図板碑などがある。



易行院 Egyoin

DATA 浄土宗 東伊興4-5-5
文亀2年（1502）浅草に創建。昭和3年、浅草から現在地に。本堂左側手前に並ぶ六地藏尊の後ろには、歌舞伎で有名な「花川戸助六と愛人揚巻」の比翼塚がある。20年以上続く親子の集まりを現在も親子ヨガの会として催し地域の良い縁をつないでいる。



善久寺 Zenkyuuji

DATA 浄土真宗本願寺派 東伊興4-11-1
浜町御坊（築地本願寺の前身）創立に尽力した善宗寺良乗の子、了信が元和3年（1617年）に創建。浜町御坊が築地に移転した際に共に移転。昭和2年、現在地に。「解剖存真図」の著者である淀藩の藩医、南小柿良佑のお墓がある。



應現寺 Ogenji

DATA 時宗 伊興本町2-3-3
足立区内に2箇所しかない時宗の寺院。伊興で最古の寺院でもある。切妻造で流破風の椽瓦葺である四脚の山門は寛永14年（1637年）の建立と伝えられ、区内最古の木造建築物。山門の蛙股などの装飾は江戸初期の建造物の特徴が見られる。



薬師寺 Yakushiji

DATA 曹洞宗 伊興5-4-3
文禄3年（1594年）に創建。山門近くには文化13年（1816年）に建立したという庚申塔が祀られている。境内には小西島菅原神社があり、例年秋頃には伊興北町会（P14）の子ども祭りが開催されている。秋の紅葉も見事で区内外にファンが多い。



東岳寺 Togakuji

DATA 曹洞宗 伊興本町1-5-16
寛永10年（1633年）浅草に創建され、伊興に移転したのは昭和36年。境内には「東海道五十三次」などで知られる浮世絵師、初代安藤玄重のお墓と記念碑がある。境内には鯉が泳ぐ池や東屋が建つ日本庭園があり穏やかな時を過ごせる。

伊興の町会・自治会のはじまり

伊興のズシ

町会・自治会のはじまりは、江戸時代、集落内の日常生活の付き合いの組織だった「ズシ（厨子）」である。当時のズシには、早房（はやぶさ）、會田（あいのた）、北根（きたね）、下戸（おりと）、西嶋（にししま）、横沼（よこぬま）があった。また、ズシごとに寺社（伊興氷川神社を除く）があり他のズシは参詣しない慣行があるように、ズシの独自性は強く、一つのズシが村のような結びつきだったという。

明治以降のズシ

明治以降、時代が大正、昭和と変わってもズシは存続し、人口が増加し耕地に集落ができるにつれて、江戸時代から続く6つのズシに加え、竹ノ塚駅周辺に「駅前厨子」、狭間地域に「狭間厨子」が新たにでき、伊興地域全体のズシは8つになった。人々はズシごとに神社祭礼や年中行事、冠婚葬祭などを行っており、生活の拠り所だった。

伊興町自治会の発足

各地のズシを支部とした「自治会」結成に向け、昭和30年8月に自治会発足委員会、9月に第1回準備委員会、昭和31年10月に第2回準備委員会と会合を重ね、昭和32年1月20日伊興小学校にて創立総会を開催し「伊興町自治会」が発足した。当時の会員数は872名。その後、下記のように支部が独立し、現在に至る。

昭和32年当時（平成18年発行「伊興町自治会50周年記念誌」より）

前沼支部	132人	（駅前厨子）	
大境第一支部	141人		
見通り支部	103人	（駅前厨子）	
早房支部	155人	（早房厨子）	昭和46年伊興仲町会となる
北根支部	93人	（北根厨子）	昭和40年伊興北根町会となる
下戸支部	54人	（下戸厨子）	昭和51年伊興南町会となる
横沼支部	62人	（横沼厨子）	昭和43年伊興中央町会となる
大境第二支部	38人		
小西支部	31人	（小西嶋厨子）	昭和44年伊興北町会となる
大西支部	21人	（大西嶋厨子）	昭和41年伊興西町会となる
狭間支部	19人	（狭間厨子）	昭和50年狭間町会、東伊興町会となる
横沼第二支部	23人	（横沼厨子）	昭和43年伊興中央町会となる



昭和39年に操業した足立清掃工場。当時は田畑が広がり高い建物が無く、電車と煙突はどこからでも見ることができた



利用者が増加するに伴い、線路の両側から利用できる橋上駅舎に改良された。昭和38年当時の竹ノ塚駅



昭和40年西伊興4丁目付近にあった瓦製造。瓦の干し場となる広い庭には、原料の荒木田土が積まれている



昭和43年、伊興中央町会結成時の記念写真。町会は若宮八幡神社の氏子のため、神社総代は羽織袴の正装、町会役員は揃いの浴衣姿。最前列右手には、屋間会長（P14）の祖父、山崎相談役の祖父の姿も

法受寺
難波住職

狭間町会
元井会長

語る！

地域にお返しすべく語り継ぎたい記憶

昭和10年に浅草から伊興に移転してきた法受寺。難波住職は「皆さんのおかげでこの場所にいられる」からこそ、「地域にお返しをしたい」気持ちが強いという。かつて務めた保護司やPTA会長、狭間町会長、現在も続く落語会（P21）の開催もそうした思いからだ。その精神は、いつでも「汗をかけ」と話していた先代の父親から受け継いだもの。かつてはお堀に囲まれ木橋を通らないと買い物に行けなかった、お堀端には桜並木があった、元井会長の石材店の前にはかつてはバス停があり石材店が休憩所になっていた、近所の子どもたちがペーゴマの先端を研いでもらいに来た、など難波住職と元井会長が語る伊興寺田周辺の記憶は尽きない。「地域にお返し」すべく、次の世代に語り継いでいきたいと考えている。

法受寺 住職 難波 大昭さん
昭和17年生まれ、84歳。好きなものは卵焼きと日本酒。その昔、音楽教科書の出版社でサラリーマンだったことも。2026年は年男!

狭間町会長 元井 一壽
昭和29年生まれ、71歳。生まれも育ちも伊興寺田。祖父の代から95年続く石材店の3代目として山伏として、お寺とご縁は深く、長い。

Namba
Daisho

Motoi
Kazuhisa

伊興町自連
山崎相談役

語る！

伊興の町会・自治会

町会・自治会の良さは「顔なじみになること」だと語る山崎相談役。外部から移り住んできた人たちに対して、相談役のように生まれも育ちも伊興の住民が垣根を作らずに受け入れる地域性があることが連帯感、そして安心して暮らせること、地域への愛着心につながってきた。また、「青少年対策伊興地区委員会（伊興地区対が略称。子どもたちの健全な成長を見守る団体等が集まった組織）の存在も大きい」と考える。今年度で41回目となった伊興町自連連合大運動会も共催である地区対委員の協力があってこそ。「町自連と地区対が車の両輪となって力を合わせることが地域の力の源。次世代につないでいきたいですね」。

伊興町自連 相談役 山崎 賢司
元伊興中央町会長。伊興町自連の連合会長も6年務めた。現在はご年配の皆さんの事業等を行う「伊興寿会」の会長、足立区の友好都市や姉妹都市の交流を支援する友好都市交流委員長、若宮八幡神社の総代を務める。趣味は75歳から始めて8年になる抜刀（三段）。



お互いの顔が見えるように円形が常の会長会議のレイアウトも、コロナ禍では顔を合わせない並びに



令和2年度の総会（伊興地域の各町会・自治会長が集まりその年の事業計画や予算を決議する会議）で使用した「書面表決書」



伊興町自連NEWSの撮影は伊興区民事務所の会議室を撮影スタジオに。撮影は本誌掲載の写真撮影もご担当いただいた清水隆史氏



伊興町自連NEWSのデザインは、ろじゆらデザインの猪又章夫氏。本誌やフェス（P9）の横断幕やパンフレット等のデザインも手がけていただいた



伊興地域のお祭りのスタートは伊興西町会「納涼盆おどり大会」。令和5年度も地域住民が集まり大いに盛り上がった



4年ぶりに開催した町自連・地区対合同新年会は64名が参加。久しぶりに顔を合わせる人も多く、話は尽きなかった



5年ぶりの開催となった運動会。すべて町自連と地区対の皆で力を合わせて運営した。40回記念の大会として大変盛り上がった



伊興町自連NEWS感謝の集い。制作に関わった皆はもちろん、紙面にご登場いただいた方々にもお声がけし38名が集まった

令和2～3年度（2020～2021）

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は運動会、地区対（P7山崎相談役の記事を参照）との合同新年会、春と秋の交通安全運動、バス研修、そして、ほとんどの会議が「書面開催」。3年度になっても状況は変わらず、数回できた会議はマスクで互いの距離を取り実施した。総会の議決は「書面表決書」の集計で行った。

令和4年度（2022）

マスクや手指消毒を心がけながら定期的な会議の開催がスタート。総会も開催したが、感染防止のため懇親会と新年会は中止、バス研修も車内での飲食は控えての開催とした。そんな状況で創刊したのが「伊興町自連NEWS（P10～11）」。

令和5年度（2023）

コロナ禍が落ち着き始め、事業も実施できるようになってきた。総会の懇親会、新年会も開催。運動会も開催を決めたが悪天候のため中止となった。伊興町自連NEWSは第2～4号を発行。コロナ禍では自粛していた各町会・自治会の盆踊り大会などお祭りも再開。数年ぶりで準備が大変な中でも、コロナ禍とほぼ同数の7町会・自治会が開催した。

令和6年度（2024）

コロナ禍と悪天候で中止が続いていた運動会を開催！40回の節目の大会で延べ2,191名の皆さんが参加した。6月は狭間町会の元井会長の西新井消防団長就任を祝う祝賀会も開催。サプライズビデオメッセージも制作し会場は大いに沸いた。伊興町自連NEWSは第5～7号を発行。3月には「感謝の集い」も開催した。

令和7年度（2025）

町会・自治会加入促進 特設窓口「会長に訊け！」開設

町会・自治会の加入率が低下している状況を受け、町会・自治会への理解を深め、より身近に感じていただいたり、加入のきっかけづくりとして実施。令和7年度からの新規事業である。事業周知用ポスターは伊興地域の全町会・自治会の掲示板に掲示するなど、広報も地域をあげて実施。ご協力いただいたアンケートの結果を受けて、今後も加入促進事業に取り組んでいく。

9/16
火

狭間町会 元井会長
伊興区民事務所 特設会場

まず初めに登場したのは元井会長。ポスターを見たという相談者も来訪した。当初は事務所で転入手続きに来られた方へのお声がけを考えていたが、実施した時間帯は該当者がおらず、事務所に手続きに来られた31名の方にアンケートにご協力いただいた。



特設会場となったエントランス正面

河内会長（伊興北根町会）も応援

11/27
木

伊興北根町会 河内会長
東伊興住区センター 1階エントランス

第2回目はファミリー層へPRできる場所での実施を検討。担当の河内会長が管理運営委員長を務める東伊興住区センターにご協力いただき、親子向けの工作教室開催時に開設することにした。37名の方にアンケートにご協力いただいた。



特設窓口を開設したエントランス

アンケートにお答えいただいた親子にお菓子などプチプレゼント



運動会に新たな競技が登場！

走れ！防災

「借り物競走」をリニューアルし、伊興地域全体で防災意識を高めよう！という競技を新設。用具係の皆さんも「カレーこっちだよー」「トイレ！トイレ！」と選手たちに声をかけながら防災グッズを渡すなど、参加者全員で楽しめた。今後も人気競技になりそうである。



スタート！

コースに置いてある封筒を拾って...

封筒の中に書いてある防災グッズ3種いづれかを受け取って

ゴール！

区災害対策課よりご提供いただいた！



生粋の伊興っ子！立花家あまねさん

▲オープニングセレモニーでのテープカット ▲大人気！第十四中学校吹奏楽部の皆さん ▲林家たけ平師匠の落語に魅了される会場 ▲町会・自治会員の皆さんによる作品展示 ▲柴田祐子さんの粋な小唄 ▲伊興寺町の僧侶の皆さんの雅楽

伊興地域学習センターでイロハのいこうフェス

伊興町自連45周年を記念して開催したカルチャーフェスは演芸や作品展示、親子ワークショップなど内容盛りだくさん。2日間の来場者は延べ250名だった。アンケートでは「伊興に住んで長いがこのような企画は初めて」「地域の皆さんのコミュニケーションの場として素晴らしい」「地域のつながりが減っている中で開催された貴重なイベント」などご好評をいただいた。

フェス開催



「伊興町自連NEWS」は、より多くの皆さんに町会・自治会を身近に感じてほしい気持ちが形になったものだ。始まりは、伊興北根町会の河内会長の「町自連の新聞はできないの？ できるでしょ」という一言だった。創刊時はコロナ禍で、多くの人と顔を合わせる機会が少なくなっていた頃。そのため、全戸配布で届けよう！読んでいただける内容にしよう！と毎号、皆で協力しながら紙面を作ってきた。多くの嬉しい反響があった。第7号で休刊となったが、紙面を通してつながった地域の皆さんとのご縁はこれからも続いていく。

● 創刊号 令和4年(2022年)11月発行



1面
▼会長に訊け！
樋田 憲次
伊興町自連 連合会長、
西新井四丁目自治会長
金子 實
伊興町自連 副会長、
伊興町アパート自治会長



2面
▼いこう町会・自治会マップ
伊興区民事務所管内全20町会・自治会の一覧。当時ご好評をいただいた。令和8年3月現在のマップは本誌(表紙裏)をご参照いただきたい。

● 第2号 令和5年(2023年)6月発行



1面
▼会長に訊け！
吉川 輝雄
伊興町自連 副会長、
伊興東町会長
河内 勝利
伊興町自連 会計(現在
は副会長)、伊興北
根町会長



2面
●ウチの役員、ココが凄い!:伊興四丁目住宅自治会
●伊興エリアのおすすめ:都立舎人公園の魅力(伊興西町会)
●町会入って良かったインタビュー:東伊興町会 長谷川さんファミリー
●私が会長だった頃:伊興中央町会 元会長 堀之内 輝雄さん
※堀之内様は、令和5年2月8日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。当記事はご家族のご厚意により掲載させていただきました。
●ウェルカム、西新井四丁目諏訪木町会!
●西新井第三団地自治会ヒストリー
●HOT NEWS 3年ぶりの開催!町自連研修会:伊興町前沼アパート自治会
●HOT NEWS 十四中美術部とコラボ 倉庫に空飛ぶクジラ!:伊興町自治会

● 第3号 令和6年(2024年)1月発行



1面
▼会長に訊け！
平井 利治
伊興町自連 特別相談
役、西新井第三団地
自治会長
小口 武男
伊興町自連 相談役、
西新井四丁目諏訪木
町会長(当時)



2面
●ウチの役員、ココが凄い!:伊興仲町会
●伊興エリアのおすすめ:荒川と五色桜大橋(伊興町アパート自治会)
●自治会入って良かったインタビュー
伊興三丁目アパート自治会 久保田さんファミリー
●私が会長だった頃:伊興町自連顧問、伊興北町会
元会長 高橋 清さん
●ウェルカム、西新井四丁目自治会!
●伊興南町会ヒストリー
●HOT NEWS 跨線橋代替通路が開通しました:伊興町第2アパート自治会
●HOT NEWS コロナ禍落ち着き町自連事業も本格化:伊興五丁目アパート自治会

● 第4号 令和6年(2024年)3月発行



1面
▼会長に訊け！
池田 良江
伊興町自連 副会長(当
時)、伊興四丁目住宅
自治会長(当時)
海老沼 新雄
伊興町自連 監査(現
在は会計)、東伊興町
会長



2面
●ウチの役員、ココが凄い!:伊興南町会
●伊興エリアのおすすめ:知る人ぞ知る桜の並木道(西伊興4丁目:伊興北町会)
●自治会入って良かったインタビュー
西新井四丁目自治会 杉下さんファミリー
●私が会長だった頃:伊興西町会 元会長 猪野 湛久さん
●ウェルカム、伊興東町会 紹介:吉川会長
●狭間町会ヒストリー 紹介:元井会長
●HOT NEWS 賑やかに開催 4年ぶりの新年会:伊興町アパート自治会
●HOT NEWS 伊興町自治会との共同企画 年3回の講座を開催!:伊興三丁目アパート自治会

● 第5号 令和6年(2024年)8月発行



1面
▼会長に訊け！
元井 一壽
伊興町自連 会計、
狭間町会長
豊田 紀雄
伊興町自連 監査(当時)
伊興町自治会長(当時)



2面
●わたしの伊興暮らし
伊興北根町会 ルース・ライアンバーガーさん
●伊興エリアの防災:伊興北根町会防災訓練、伊興東町会・狭間町会・東伊興町会合同スタンバイ操作訓練
●ウェルカム、伊興中央町会!
●東伊興町会ヒストリー
●私が会長だった頃:伊興仲町会 前会長 横山 勝吉さん
●町会入って良かったインタビュー:伊興西町会ビーチボールバレーチーム
●HOT NEWS 伊興エリア各地でお祭りあり!:西新井四丁目自治会
●公営住宅自治会長の横顔:菊地 秀夫(伊興町前沼アパート自治会長)、伊藤 勝広(伊興三丁目アパート自治会長)

● 第6号 令和6年(2024年)12月発行



1面
▼会長に訊け！
永田 正三
伊興西町会長
原 富雄
伊興北町会長



2面
●わたしの伊興暮らし
伊興西町会 アンソニー・ケリーさん
●伊興エリアの防災:「消防団」について:西新井消防団 団長 元井会長(狭間町会長)、第六分団 部長 照井会長(伊興仲町会長)
●伊興エリアのおすすめ:“足立の鎌倉” 伊興寺町の魅力(狭間町会)
●西新井四丁目諏訪木町会ヒストリー
●町会入って良かったインタビュー:伊興東町会 尾崎さんファミリー
●HOT NEWS 祝!40周年 10/20(日)開催 伊興町自連連
合大運動会:伊興南町会
●HOT NEWS 11/21(木)開催 町自連研修会:伊興四丁目住宅
自治会
●公営住宅自治会長の横顔:片桐 浄子(伊興五丁目アパート自治会長
当時)、堤 恵子(伊興町第2アパート自治会長)

● 第7号 令和7年(2025年)3月発行



1面
▼会長に訊け！
堀之内 晴信
伊興南町会長
屋間 雅樹
伊興中央町会長
照井 辰美
伊興仲町会長



2面
●わたしの伊興暮らし
伊興北町会 アイエサ・マツモトさん
●伊興エリアの防災:伊興エリアに8箇所ある「避難所」と運営訓練
●ウェルカム、伊興北根町会!
●伊興町自治会ヒストリー
●私が会長だった頃:伊興町自連 相談役、伊興中央町会 元会長 山崎 賢司さん
●HOT NEWS プレイバック!伊興町自連2024:伊興町アパート自治会
●編集後記:伊興町自連NEWS編集委員会(伊興町自連役員)

“イロハのいこう”とは? —— 歴史を大切に、新たな魅力を伝え つながりを広げてゆく願いの言葉

伊興寺町の遊歩道にある、狭間道プチテラス。そこには、かつて伊興町自連の連合会長をお務めになった田中正次さんが語った「伊興昔話あれこれ」が掲示されている。その中に出てくる「伊興の『い』は、い・ろ・はの『い』一番始めにできたところ、興ったところ、という意味。いい名前。」という言葉。「イロハのいこう」の由来だ。伊興町自連NEWSの媒体名であり、フェス(P9)の名称にもなり、本誌のタイトルでもある。歴史を大切にしつつ、新たな地域の魅力を伝えて、つながりを広げてゆく、という願いを込めている。

お寺に沿うように続く狭間道。プチテラスは散策のひと休みに最適

伊興町自治会

会長 大島 啓 Oshima Akira

夏の「水遊び&手持ち花火大会」をはじめ、公園清掃や花壇づくり、敬老のお祝い、防災訓練や年末の防犯パトロールなど、地域みんなで楽しめる多くのイベントを開催。子どもも大人も笑顔になれるイベントをきっかけに交流が広がり、お互いの顔が見える安心した暮らしにつなげていきたいと考えている。これからも、地域のつながりを大切にしながら、楽しく暮らせるまちを育むために活動していく。



昭和32年生まれ、68歳。会長になって1年。役員の実験も無かったが、活気ある役員たちと一緒に地域のためにやるべきことを模索中。運動不足解消のゴルフが趣味。



大好評! 水遊び&手持ち花火大会

近隣の親子346名が参加。会員以外の参加多数で加入にもつながった



子ども会でバスツアー

子どもたちを通して親同士が知り合うきっかけにも

MAP 12

伊興北根町会

会長 河内 勝利 Kawauchi Katsutoshi

「過去を踏襲せず新しい発想を」という会長の信条どおり、多彩なイベントを実施。令和6年度から始めた「納涼こどもまつり&芸能大会」では紙切り芸などプロの演奏をはじめ、伊興東町会やんちゃ太鼓(P15)などの演奏、屋台や子どもの遊び場など近隣のつながりを活かす企画で大好評。会員同士が顔見知りになることは防犯対策にもつながる。毎月2回実施する公園清掃もその一環。住民同士のコミュニティの場になっている。



伊興町自連 副会長
昭和29年生まれ、71歳。伊興本町で生まれ現在も暮らす。63歳から会長に。好きな言葉は「時間は資源」。町会員の課題解決のために迅速な行動を心がけている。



町会みんなで 防火・防災訓練

消防署等の協力によりマンホールからの給水訓練などを実施



多彩なイベントが大好評

「納涼こどもまつり&芸能大会」で第十四中学校吹奏楽部の演奏



地域の 学校活動をサポート

会長が支援する東伊興小学校の畑。自前の耕運機で農業体験の準備中

MAP 17

都市再生機構 西新井第三団地自治会

会長 平井 利治 Hirai Toshiharu

西新井第三団地といえば「自治会花壇」である。足立区の花いっぱいコンクール※には昭和43年度の第13回から現在まで参加している。その間、最優秀賞21回、特別賞19回など入賞団体の常連。長年の活動を評価され、区制90周年記念の特別表彰も受けた。花壇は住民間の結束力を強固にしてきた。会長は「同じ団地に住むご縁がある皆で力を合わせたおかげで花壇ができて、さらに団地内外の皆喜んでくれる。ありがたいね」と語る。



伊興町自連 特別相談役
昭和7年生まれ、93歳。団地ができた当初から自治会の役員を続けてきた。役員になって60年、うち会長職は20年。自治会は、「お互い様の精神が大切」だと考える。



季節の花々が咲き誇る広大な自治会花壇

3,488㎡の広大な公園内に3,000球のチューリップをはじめ季節の花々が見事に広がる。団地住民の誇りの花壇は近隣の人々から楽しみにしていると声をかけられることも多い

※美しいまちづくりや防犯、地域コミュニティ活性化の取り組みとして、区内の団体等が育成した花壇等を評価するコンクール

MAP 9

伊興西町会

会長 永田 正三 Nagata Masazo

子どもからご年配の皆さんまで全世代で楽しめる町会を目指す伊興西町会。イベントも、ファミリーに人気のバーベキューやスイカ割り、ご年配の皆さんが嬉しい敬老お祝い会、その他、歴史を学ぶ講演会や落語と踊りの会など全世代のニーズに答えている。結成して60年。昨年度から、舎人公園で開催の千本桜まつりに和菓子屋台の出展を始めた。スタッフ全員が「自分事」として取り組み大盛況。楽しみながら続けたいという。



伊興町自連 会計監査
昭和25年生まれ、75歳。中学校PTA会長、町会役員を経て、令和4年から町会長。会長宅の目の前にある舎人公園は散歩コースであり勤務先。自身の庭のように詳しい。



千本桜まつりで 和菓子屋さん出展!

200円という激安価格の白玉(5個入り)。2日間で1,823串が完売



伊興地域で 一番早い盆踊り

例年7月中旬、伊興地域で一番最初に開催する盆踊り大会



それぞれの役割を全うする 役員たち

チームワーク抜群の副会長トリオ。左から森戸さん、太田さん、滝澤さん

MAP 2

伊興中央町会

会長 昼間 雅樹 Hiruma Masaki

年間のイベントが17回、お祝いが人生のイベントごとに6回と、まさにキャッチフレーズの「ゆりかごからエンディングまで」サポートしている伊興中央町会。最大の行事は夏祭り。毎年、昼は山車と神輿渡御、夜は若宮八幡神社での奉納踊り大会を行い、大いに盛り上がる。運営側も楽しみながら企画しているイベントは、随時、伊興中央町会の掲示板でお知らせ。会員以外の方の参加も可能なため、ぜひ気軽に参加してほしい。

活動の様子は
こちらの
QRコードから

昭和29年生まれ、71歳。伊興中央町会長の初代は親戚、第四代は父親、自身は第十代で3人目の「昼間会長」。50代から町会の役員を務め、趣味になった「地域活動」を継続中。

MAP 6 粋な掛け声で迫力満点の
神輿渡御

山車と神輿が地域を巡る。今年度は20数年ぶりに半纏も新調!

氏子を務める神社で
奉納踊り大会

伊興中央町会が氏子を務める若宮八幡神社での奉納踊り大会

ファミリー向けのイベント
も充実

餅つきの他、デイキャンプ、昔ながらの遊び体験イベントも開催

伊興北町会

会長 原 富雄 Hara Tomio

伊興北町会のモットーは「幅広い世代の皆さんが笑顔で暮らせるまちにしたい」ということ。町会の一大会である夏の盆踊り大会は東伊興小学校で開催。毎年、盛況だ。そして、鶴屋副会長の提案もあり、近年は清掃活動に力を入れている。11月、伊興地区対（P7下段参照）のグリーン作戦に参加した時は、ごみの種類を点数制にしてゲーム感覚で取り組む工夫も。まちをきれいにすることは防犯、防災対策につながる。さらに、笑顔にもつながると考えている。

昭和26年生まれ、74歳。子どもたちの地域活動の支援や町会役員を経て、会長になり4年。20年前からは保護司も。自分が関わることが少しでも子どもたちの力になればという思いで続けている。



MAP 1 ゲーム感覚を取り入れて清掃

町会独自のグリーン作戦を年3回実施。点数制のアイデアは山下副会長から



定期的にも実施する公園清掃

第1・3日曜日に2箇所の公園を清掃。おしゃべりも盛り上がる



頼れる役員が揃う!

情報交換に勤む副会長3名。
左から、山下さん、柴田さん、鶴屋さん

伊興東町会

会長 吉川 輝雄 Yoshikawa Teruo

餅つきや盆踊り大会など家族で楽しめるイベント等が多いのが伊興東町会の自慢。力を入れている活動の一つが「やんちゃ太鼓」だ。小学6年生までの子どもたちが元気に太鼓を鳴らし続けて29年経つ。日々練習を重ね、区内外のイベント等で活動している。現役を引退し、OG、OBになってもイベント演奏に参加する子も多い。伊興東町会では、他にも多彩なイベントを企画。今後もモットーは「家族みんなで楽しく」である。



MAP 18 29年続くやんちゃ太鼓

今年度は伊興町自連連合大運動会でも披露。迫力ある演奏で大好評だった



屋台がズラリ盆踊り大会

伊興公園に屋台が立ち並び、毎年大勢の皆さんで賑わっている



毎年、大人気の餅つき大会

近隣の皆さんが楽しみに集まり例年100名以上が参加。豚汁のふるまいも

伊興町自連 副会長
昭和30年生まれ、70歳。PTA会長、青少年委員を歴任し、平成27年から町会長。平成8年から落語会（P21）を主催するなどプロデュース力抜群。

伊興町アパート自治会

会長 金子 實 Kaneko Minoru

創立54年目を迎えた伊興町アパート自治会。ご年配の世帯が増えたが、互いに若い頃から知る安心感もある。昔はアパートの前の公園にやぐらを組んで盆踊りなどで盛り上がったり、敷地内にある集会室で「手作り展」を開催したことも。2年前から区産業振興課との調整により団地内での移動販売を開始。2業者が毎週1回ずつ団地内に移動販売に来てくれる。買い物はもちろん、おしゃべりなど交流の場としても人気。

伊興町自連 副会長
昭和14年生まれ、86歳。初めて会長になったのは昭和62年。その後、平成13~15年も務め、平成22年から現在も続投。アパート自治会長の皆さんの心強い相談役でもある。

好評を博していた
手作り展

平成22年頃の恒例行事。アパートの入居者が手がけた絵画や編み物、小物などを多数展示。お互いの作品について話したりと楽しく過ごしていた



MAP 11



毎週2回、団地内で移動販売

水曜はとくし丸（食料品など）、木曜はまつ丸（野菜・果物）。皆が楽しみにしている

伊興仲町会

会長 照井 辰美 Terui Tatsumi

照井会長が西新井消防団第六分団部長を務めていることもあり、写真のとおり、防犯・防火意識を高める活動に重きを置いている。一時に比べ役員数は減ったが、役員OBや役員の奥様に「協力隊」として、可能な範囲で活動をサポートしてもらうことで数々のイベントを開催。最近始めたのはLINEを活用した情報発信。伊興仲町会の公式アカウントの登録者に最新情報を配信。町会に関わりやすくなるきっかけにしたいと考えている。



昭和27年生まれ、73歳。町会長は令和6年から。夜間パトロール等の活動が都で表彰された、自主防犯ボランティア団体「T-VOLAN (ティーボラン)」の会長も務める。



西新井防火防災女性の会とパトロール

春と秋の火災予防運動で女性役員と協力隊が10年以上実施中



防災訓練を定期開催

毎年2月に初期消火や救命講習、スタンドパイプ*の操作訓練を行っている
※消防車両が進入できない狭い場所でも消火ができる機材



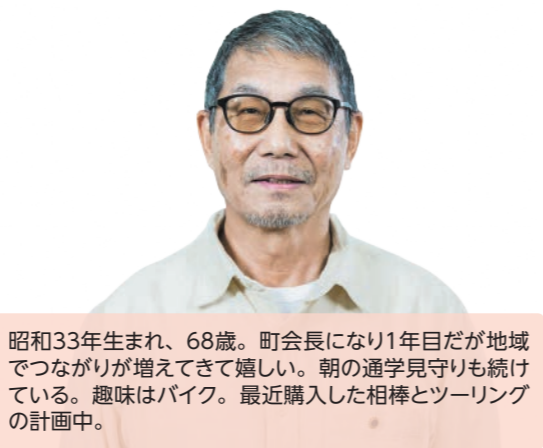
納涼盆踊り大会

コロナ禍などで中断していたが令和6年に復活。大勢のお客さんと賑わった

西新井四丁目諏訪木町会

会長 齊藤 行弘 Saito Yukihiko

昭和40年代、町会エリア周辺の道は晴天が続くと砂ぼこりが舞い、雨天時にはぬかるみになる状態だったという。その状況を改善したいと町会を設立。道路改修について区に嘆願する大きな力になった。当時60数世帯だった加入世帯数は現在192世帯。昭和57年に町会会館を開設し、平成21年には法人化。毎年恒例のお花見をはじめ、防災訓練にも力を入れ、「いざという時の力になる」ために会員同士の交流を大切にしている。



昭和33年生まれ、68歳。町会長になり1年目だが地域でつながりが増えてきて嬉しい。朝の通学見守りも続けている。趣味はバイク。最近購入した相棒とツーリングの計画中。



毎年恒例のお花見で交流

諏訪木第二公園でのお花見は恒例の人気イベント。毎年盛り上がる



好評だった町会主催の運動会

昭和50年代に開催。人気だったお笑い番組を模した看板で入場行進



いざという時のために訓練

町会では可動式のポンプも所有。貯水槽とつなぐことができ安心

西新井四丁目自治会

会長 樋田 憲次 Toida Kenji

「同じ地域に暮らす者同士、挨拶できる関係になろう」と話す樋田会長。毎朝続けている横断誘導もその一環。谷在家駅と西新井第二小学校を結ぶ通りのため、登校中の小学生をはじめ、通勤、通学の人たちも多く、挨拶を交わすことが楽しいという。近所に心強い仲間を増やすため、避難所運営訓練も自治会内で声をかけ合いながら実施している。2年前からは防犯カメラの設置も推進。安全・安心なまちづくりを進めている。



身近なネットワークづくり

会長が行う横断誘導。毎朝会う幅広い年代の人たちと顔見知り



お祭り大盛況!

地域の子どものための“ふるさと”の記憶になれたらと続けている



避難所運営訓練で備え

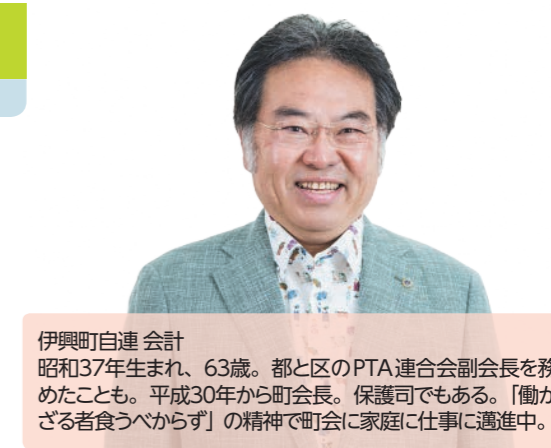
自治会エリアの避難所は西新井第二小学校と足立工科高校

伊興町自連 連合会長
昭和16年生まれ、84歳。会長になって19年。伊興町自連の連合会長は平成30年から。現在は区町自連の会計も。毎朝の西新井四丁目交差点での横断誘導は18年継続中。

東伊興町会

会長 海老沼 新雄 Ebinuma Arao

東伊興町会は国道4号線西側初の「防犯まちづくり推進地区」。きっかけになったのは、海老沼会長が取り組んだ防犯対策だ。防犯カメラの設置も迅速に進め、近隣の町会内においてもカメラ設置エリアの拡大につながった。一昨年、町会創立50周年を迎えた。記念事業として防犯カメラの追加設置、災害時のための備蓄倉庫の設置を実施。今後も、隣近所と仲良く、安心して暮らせる地域にしていこう。



伊興町自連 会計
昭和37年生まれ、63歳。都と区のPTA連合会副会長を務めたことも。平成30年から町会長。保護司でもある。「働かざる者食うべからず」の精神で町会に家庭に仕事に邁進中。



伝統の神輿渡御

他町会・自治会からも応援が多数集まって大賑わいの神輿で練り歩く



子どもたちが集う盆踊り大会

結成当時の会員名簿にある「こども時代の思い出を作っておこう」という精神は現在も同じ



令和初の会員名簿を制作中

右は町会結成後、初めて発行した名簿。なんと会員の出身県の記載も!

MAP 15

MAP 8

MAP 7

MAP 20

狭間町会

会長 元井 一壽 Motoi Kazuhisa

P7にもあるように古くから残る「狭間」という地名を冠した町会である。その名を誇るように、元井会長が幼かった頃、周りには地域の歴史を大切に語り継ぐ大人が多かった。町会の神輿渡御も、そんな地域を愛した大人たちから受け継いだ大事な行事。神輿は、元井会長の亡くなった母親が副会長の頃、町会内の職人が集まって作った。元井会長も手伝い、思い入れも深い。今も多くの人たちの思いをのせて地域を練り歩く。



伊興町自連 会計
昭和29年生まれ、71歳。PTA会長や地少協 会長など地域活動が長く、現在は伊興地区対 (P7) 会長、西新井消防団 団長と複数のお役目を兼任。地域の方々からの信頼も絶大。



狭間町会の歴史を刻み続ける神輿



50周年記念式典で落語

林家たけ平師匠をお招きしての式典。会場は笑いに満ちた

MAP 19

神輿と一緒に、活気あふれる集合写真

自慢の神輿の前で写る元井会長の母親と当時の町会役員の皆さん。集合写真は開園間もない伊興遺跡公園 (P3) で

※地少協：第十四地区少年団体協議会の略称。地域の子どもの活動を支援する団体

伊興南町会

会長 堀之内 晴信 Horinouchi Harunobu

50周年を迎える伊興南町会。①会員の安心・安全のために、②会員の交流のために、③きれいで住みよい町のために、様々な世代が過ごしやすい地域を目指して活動している。特に好評なイベントは、大いに盛り上がる夏の納涼踊り大会、諏訪神社境内で開催する年末の餅つき大会、茨城県下妻市への農業体験ツアー。地域のイベント等に出店する屋台メシも好評だ。楽しみながら交流を深め、先述した3つの指針を守っている。



昭和25年生まれ、75歳。30年前に役員になり、会長に就任し3年。「歴代の会長や役員が築いてきたものを大切に次世代に引き継いでいきたい」という思いで取り組んでいる。



破格の屋台メシが自慢

町会名物「屋台メシ」。焼き鳥1本100円! 美味でファンが多い



子どもたちが主役のイベントも

水遊び大会や餅つき大会など親子で楽しめるイベントも大人気

MAP 10

茨城県下妻市との交流

前会長からのご縁で交流が続く下妻市へ親子で農業体験ツアー

伊興五丁目アパート自治会

会長 市橋 美夫 Ichihashi Yoshio

入居者同士の顔の見える関係という安心感の中、「力を合わせて自治会を運営しています」という市橋会長。自治会内でのイベントの開催は無いが、月に1回のリサイクル活動と草取り (季節によっては中止) は続けている。ご年配の方も増えてきたため、会った時にはお互いに声をかけ合うことを心がけている。今後も、安全・安心で楽しい日々を暮らせるように取り組んでいく。



昭和29年生まれ、71歳。会長を引き受けて1年。「横のつながりができて嬉しい。皆さんが安心して暮らせること、喜んでいただけることを心がけたい」。座右の銘は「努力」。



MAP 3

月に1回のリサイクル活動

毎月第1土曜日はリサイクル活動。協力しながら取り組んでいる



花壇の四季の花々を楽しんで

皆に親しまれている敷地内の花壇。様々な花々を育てている



顔の見える関係を築ける自治会

近くの伊興住区センターの講座等にも積極的に参加する住民が多い

伊興四丁目住宅自治会

会長 渡部 美智子 Watanabe Michiko

お元気なご年配の方が多くという伊興四丁目住宅自治会。だからこそ、健康に対する意識が高い。そのため集会所をフル活用し、週4回は心身の健康を目的とした体操、月1回は地域包括支援センター伊興主催の「ゆるカフェ憩う」を開催。「ゆるカフェ憩う」はお茶を飲みながら楽しくゲームをする他、もの忘れや医療等の相談にも乗ってくれる。近隣の自治会員も参加し、おしゃべりの場にもなっている。



昭和27年生まれ、73歳。会長になって1年。大切にしているのは、常に感謝の気持ちを忘れないこと。趣味は音楽鑑賞。中でもテナーサックスの響きが好き。



MAP 4

体操でリフレッシュ

50~80代の有志で楽しみながら取り組んでいる



リピーター続出! ゆるカフェ憩う

この日は体操と脳トレ。前会長の池田良江さん (写真右) も楽しそうだった!

伊興三丁目アパート自治会

会長 伊藤 勝広 Ito Katsuhiko

今年度から地域包括支援センター伊興の皆さんと共催で「みんなの伊興三丁目ひろば」を集会所でスタート。ラジオ体操に取り組んだ後は、将棋、折り紙、ポッチャなど好きなものを楽しめる「みんなの居場所」になっている。介護のことなどセンターのスタッフに相談も可。今後の課題は「みんなの居場所」などに積極的に参加できない方の見守り。無理のない「ゆるい見守り」を住宅の皆さんと一緒に取り組んでいく予定だ。



伊興町自連 会計監査
昭和40年生まれ、60歳。就任して5年の会長として「皆の意見を聞きながら、最もいい方向を考えていきたい」。プライベートでは家族が最優先。一緒に過ごす時間が至福!



みんなの居場所、伊興三丁目ひろば

ご年配の方を中心とした「居場所」。団地の敷地内で気軽に参加できるのが魅力



定期的な清掃活動

敷地内をキレイにしながら、コミュニケーションの場としても

伊興町第2アパート自治会

会長 堤 恵子 Tsutsumi Keiko

住民が集まり協力し合うことで、より良い団地生活を目指している。同じ団地の住民同士でも会う機会は少ない。だからこそ、子どもたちへのクリスマスプレゼントや敬老のお祝いを渡す訪問を続けている。また、イベントに参加していただけるように、定期的な会合等を通して皆さんの声を反映することも心がけている。最近では操作の簡単なカラオケ機材を購入。毎年恒例の納涼会で大いに盛り上がった。



昭和24年生まれ、76歳。自治会発足時の平成19年から副会長を務め、昨年から会長。推しは高校生当時、某番組常連だったシンガー。ライブを観に広島まで行ったことも!



住民全員アンケートでカラオケ機材を購入!

集会所で行う毎年恒例の納涼会。新しく購入したカラオケは「操作が簡単」というところがポイント。参加者全員で楽しんだ



自治会参加は地域とつながるきっかけに

「子どもたちに向けた新企画など大募集です!一緒に自治会を楽しみましょう」と堤会長

伊興町前沼アパート自治会

会長 菊地 秀夫 Kikuchi Hideo



全世帯が参加している自治会。定期的な清掃に力を入れている。年末には防犯パトロールも。



伊興二丁目自治会

会長 赤松 眞智子 Akamatsu Machiko



全世帯が参加している自治会。廃品回収や草取り、清掃活動など協力しながら取り組んでいる。

MAP 16

MAP 5

町会の枠を超え
スタッフとして参加



近藤さん 齋木さん 元井会長

平成8年から春(4月)と秋(10月)の年2回
法受寺 伊興寺町寄席

平成18年から夏(8月)と冬(2月)の年2回
正安寺 奉納落語会

お寺で楽しむ四季折々の落語会

平成8年から続いている落語会がある。企画・運営は吉川会長(伊興東町会)。季節の移ろいを行事で楽しむ浅草っ子の血が騒いだ会長が当時の地少協(P18中段参照)会長の坂田修さんとお寺での落語会を発案した。伊興寺町で生まれ育った元井会長(狭間町会)をはじめ、齋木幸江さん(伊興北町会役員)や近藤弥生さん(東伊興町会副会長)もスタッフで参加。「伊興寺町寄席」の初回は平成8年4月。春と秋の年2回、法受寺の難波住職の全面協力のもと現在に至る。平成18年8月からは隣の正安寺の先代住職からお誘いを受け、夏と冬の年2回落語会を開催することに。一年を通して寺町で落語を楽しむようになった。「どちらのお寺も地域貢献に熱心で本当にありがたい」と吉川会長。「好きで続けている」と笑顔で話す。

地域にお返しをしたい
思いで続けてきました。
お寺で聞く落語も乙なもの。
臨場感がありますよ



法受寺 住職 難波 大昭さん

今年の落語会に伊興
ご出身の立花家あまねさん
に出演いただき感無量。
まさに町おこしですよ



正安寺 住職 田丸 英春さん

今年2月に正安寺さん
で行われた落語会には
立花家あまねさんが
ご出演!



伊興東町会長 吉川 輝雄



落語会開催時には、お寺の前にオリジナルののぼりがはためく。落語の前には日本酒や豚汁などのふるまいも



法受寺 伊興寺町寄席での柳家 治師匠。十八番は人情噺。趣深い空気をたたえた噺で観客の心を掴む



正安寺 奉納落語会での古今亭 志ん彌師匠。観客が江戸時代にタイムスリップするような臨場感が魅力!



ご活躍の真打の噺家の皆さんの落語会にも関わらず、入場料は破格の1,000円! 毎回のように足を運ぶファンも多い

MAP 14

MAP 13

IROHA
伊興町自連
役員

町会・自治会員

の話を訊く!

伊興北根町会
ライアンバーガーさん

大学の准教授として茶道を研究して25年。3年前から伊興地域に移住し茶道教室を主宰している。「日本文化大好き。同じ町会ではなくても、気軽に話しかけてください」。



西新井四丁目自治会
杉下さん

10年前から伊興地域に。「町会・自治会は地域の安全・安心を維持するために必要な組織。一緒に協力したい」。夫、中学生の息子さんの3人家族。



伊興三丁目アパート自治会
久保田さん

自治会に入って3年、「普段からお互いを知っている人たちと一緒に地域での活動も参加しやすくなりました」。夫、小学生と幼稚園児の兄弟の4人家族。



入ってみると分かる!
町会・自治会の魅力、

伊興の魅力

このページは「会長に訊け! (P9~11)」ならぬ「町会・自治会員の話を訊く!」。ご協力いただいたのは「伊興町自連NEWS (P10~11)」の「町会・自治会に入って良かったインタビューコーナー」など取材にご協力いただいたお三方。外国人として、またファミリー世代として、町会・自治会についての率直なお話を伺った。

パートに住んでいましたが、その時は町会・自治会との接点はありません。入る方法も、どこに聞けばいいのかわかりませんでした。そのため、町会・自治会側から声をかけてもらえると嬉しいと思います」

町会・自治会に入会してもらうには?

ライアンバーガーさん「外国人の場合、町会の存在を知らなかったり、入会の仕方が分からない人が多いと思うので、まずは声をかけてもらえるとありがたいです」

杉下さん「入会したきっかけは、引っ越してきた時に声をかけてもらったこと。引っ越したばかりだと手続きなどに追われ、入会の方法を調べる余裕も無いと思います。例えば子どもが小学校に上がる時など地域に目が向きやすいので、そういったタイミングに誘ってもらえると入りやすいかも」

久保田さん「公営アパートに入る前は区内の民間ア

町会・自治会に入って良かった!

ライアンバーガーさん「日本語で会話はできても、チラシの書き言葉が分かりにくい外国人が多いと思います。町会に入ると、イベントに参加して知り合いが増えたり、地域の情報について気軽に聞くことができるので、生活しやすくなります」

杉下さん「幅広い世代の近所の皆さんとは、子どもの学校だけではなかなか知り合う機会がありません。入会すると家族ぐるみの知り合いが増えて、とても心強いですよ」

久保田さん「公営アパートは自治会に入ることが基本。長年暮らしている人も多く、気軽に声をかけてくれます。子どもたちも近隣の皆さんに挨拶をすることが当

たり前になりました。知り合いが増えて心強い。子どもたちにとっても良い環境です」

町会・自治会員としてやってみたいこと

久保田さん「子どもはお祭りが大好き。団内で子ども向けのお祭りをやってみたいです。実行委員としての参加も楽しそう」

杉下さん「積極的に地域に関わることで、同世代のママのネットワークが広がる可能性もあると思います。子どもが大きくなるにつれて町会・自治会の運営側になることも検討したいです」

伊興地域について思うこと

ライアンバーガーさん「伊興ブランドをもっとアピールしたい。寺町があり伝統や文化があるのが伊興の魅力。外国人に響くポイントも多いと思います」

杉下さん「地域のつながりの加減がちょうど良い地域だと思います。外から来た人たちを受け入れてくれる度量があるうえ、押しつけがましくない。周りの地域

にも伝えたくらい素敵だと思っています。伊興地域で暮らす人たちの魅力ですね」

皆さんの話を訊いて会長たちが思うこと

樋田会長「自治会の役員になって地域を見る目が変わった。「誰か」がやらなければならないことに取り組む「誰か」になろうと思った。そして、横断誘導を始めたことで知り合いも増えた。毎朝、挨拶をする皆さんの人たちがいる。挨拶、大事だよ」

永田会長「確かに、まずは挨拶をすることから。普段から知っていれば、いざという時の力になる」

海老沼会長「地域の人同士が仲良くなれば、皆が安心して暮らせる地域になるよね」

金子会長「人は助け合っていくことが大切。町会・自治会への積極的な参加はやりがいの場としてもおすすめ」

河内会長「町会・自治会は、自分は何ができるかを考え実現するところ。取り組んだことは地域、については自分に返ってくる」

吉川会長「町会・自治会に入ってみれば、楽しさが分かる。できない理由ではなく、できる方法を探す。新しく始めてみたい」

伊藤会長「自治会に積極的に関わることで伊興が好きになった。ネットワークも広がる」

元井会長「町会に入らないと分からないことがある。経験も情報量も変わるよ。いつでもお話ししよう」



伊藤 勝広 P20



海老沼 新雄 P17



河内 勝利 P12



金子 實 P15



樋田 憲次 P17



吉川 輝雄 P15



永田 正三 P13



元井 一壽 P18



伊興町自連45周年記念 イロハのいこうブック 令和8年3月発行

編集後記

イロハのいこうブックの編集に携われて楽しかったです。この冊子には伊興地域や町会・自治会活動の歴史がコンパクトにまとめられています。これからの活動の参考になればと思います。(永田)

昔から住む方も、新しく来られた方も、このまちを愛するきっかけになれば嬉しいです。(伊藤)

東伊興の宝、あまねちゃん (P9、P21) 万歳! これからもよろしく♥ (海老沼)

伊興の素晴らしさを再確認! (元井)

いいものができました。伊興地域に全戸配布して、多くの皆さんに届けたいです。(河内)

皆さんに喜んでいただけて嬉しいです。遺跡の歴史も勉強したくなりました。(吉川)

伊興地域の歴史、伊興町自連のあゆみを詳細に記載したうえ、現在の各町会・自治会の活動を写真付きでご紹介した分かりやすく素晴らしいブックができました。地域の皆様に知っていただくきっかけになるとと思います。(金子)

皆様、ありがとうございました。今後、長きにわたり、地域の大切な歴史を振り返る一助にいただければ幸いに存じます。(樋田)

編集

伊興地区町会自治会連合会編集委員会
 連合会長 樋田 憲次 (西新井四丁目自治会長)
 副会長 金子 實 (伊興町アパート自治会長)
 副会長 吉川 輝雄 (伊興東町会長)
 副会長 河内 勝利 (伊興北根町会長)
 会計 元井 一壽 (狭間町会長)
 会計 海老沼 新雄 (東伊興町会長)
 会計監査 伊藤 勝広 (伊興三丁目アパート自治会長)
 会計監査 永田 正三 (伊興西町会長)

発行

伊興地区町会自治会連合会 (伊興町自連)

発行責任者

樋田 憲次

事務局

伊興区民事務所 足立区伊興1-24-12 TEL: 03-3899-1048 FAX: 03-5691-7917
 E-mail: ikou-jimusho@city.adachi.tokyo.jp

制作・デザイン

ろじゅらデザイン

各町会・自治会長撮影

清水 隆史

参考

足立区立郷土博物館 (平成14年)『ブックレット足立風土記⑩ 伊興地区 足立の生活誌』
 伊興町自治会 (平成18年)『伊興町自治会50周年記念誌』

写真提供

足立区立郷土博物館収蔵資料データベース

協力

足立区地域文化課



これからも
よろしく



イロハのいこうブック